

平成三十九年度 九州歯科大学歯学部 大学院入学式

歯学科第七十回、口腔保健学科第九回、大学院第五三回 第五回入学式

式辞

本日、希望に満ちあふれる新入生の皆さんを九州歯科大学に迎えることができ、この上もない喜びを感じております。歯学部歯学科、口腔保健学科および大学院歯学研究科に入学した皆さんに対して、九州歯科大学の教職員を代表して、ようこそ九州歯科大学へという歓迎の言葉を贈ります。

また、これまで成長を見守ってこられた保護者の皆さまもさぞかしお喜びのことと存じます。教職員を代表して、入学生諸君が社会に貢献する歯科医療人となる道のりをしっかりと支えることをお約束します。あわせて、保護者各位におかれましては、大学とともに新入生の成長を見守り、今後、優秀な歯科医療人になるまで、ともに育てるという協働作業をあらためてお願いいたします。

本日の入学式には、小川洋福岡県知事をはじめ、かくも多数のご来

賓のご臨席を賜り、厚く御礼申し上げます。

九州歯科大学は、我が国において歯科部を有する二九大学の中で、唯一の公立大学として、百年余という長い歴史と伝統、ならびに輝かしい実績を持って、歯学教育および歯科医療の発展に大きく貢献してまいりました。九州歯科大学は、平成十八年に公立大学法人として歩み始め、大学改革を進めるなかで、平成二七年度に九州歯科大学憲章を制定し、次世代を担う歯科医療人の育成に向けて、これまでの三つの基本理念に加え、六つの教育研究目標を掲げ、実践的な歯科医療人の教育の充実に向けて、大幅な改編を行っています。その憲章の前文には、「平成二六年の創立百周年を機に九州歯科大学は、次なる世紀に向けて患者中心の歯科医療が提供できる人材の育成を第一義に掲げ、学生、教員、職員の三者が一体となって、理念の共有と目標の実現を目指します」と謳いあげています。このような環境のもとで教育を受け、実践的な歯科医療人として社会に巣立つことができるよう教職員一丸となって取り組むことをここであらためてお約束します。その一方で、教職員を代表して、本日、入学した学部および大学院の新生諸君に対しては、我々の期待に応えるべく、日々の学修、研究に精進することを強く求めます。

さて、現在、九州歯科大学は、時代の流れに即した継続的な大学改革を推進し、専門的医療人、すなわちプロフェッションの養成を重要視した教育を行っています。平成二七年度に設置した歯科医学教育センターにおいて、二一世紀に入り、医療系大学において、世界的なレベルでアウトカム基盤型教育が重要視されているなかで、このような教育改編の潮流を歯学教育にいち早く取り込み、歯科医療人としてのプロフェッショナルリズムの涵養を掲げ、患者優先の考え方に立って歯科医療が行える人材の育成を重要視した教育を展開しています。現在進めている教育改編では、高い倫理観に裏打ちされたヒューマニズムの精神、さらには、自己の利益よりも他者の利益を優先するという利他主義を兼ね備えた歯科医療人養成を第一義に考えた教育を多面的に展開します。このような話しをしたうえで、本日、歯学部に入學した新入生の皆さんにお願いです。諸君は、本學のアドミッションポリシーを十分に理解し、将来歯科医療人として社会に貢献するという強い意志と高い志を持って、本學に入學したと信じています。これから先、九州歯科大学における大学生活において、自らを律した生活を送り、本当の意味でのプロフェッションとして社会に貢献するという強い意志を持ち続け、主体的に日々

の勉強に励んでいただきたいと思います。常に、夢と希望を失うことなく、社会に貢献する歯科医療人となってください。

次に、大学院に入学する学生諸君に申し上げます。どのような学問領域であっても、それを支えているのは研究です。今後、歯学研究科における大学院生として、修士課程および博士課程で研究生生活を送ることになりますが、「無知は罪悪である」という言葉をしっかりと胸に刻み込んで、歯科医学に貢献する研究者として、生命科学における高度の研究能力ならびにその礎となるオーラルバイオサイエンスに関する豊かな学識を養ってください。その際、自らに課題を課し、その問題解決に自主的に取り組むことを強く望みます。そして、大学院修了時には、口腔保健を通じて国民の健康増進に貢献し、これから求められる地域包括医療において優秀な臨床医・歯科衛生士として、あるいはそれを支える研究者として活躍することを強く願っています。平成二八年度、本学が福岡県に提案した重点施策が採択され、この事業の一環として、本学内に口腔保健・健康長寿推進センター（Dental Center for medically compromised patients;通称 DEMCOP）を開所しました。このセンターでは、地域の歯科医師会と連携協定を結び、地域医療を展開している歯科医師お

よび歯科衛生士のリカレント教育を行っています。それに加え、製鉄記念八幡病院、北九州医療センター、ふらて会西野病院、新栄会病院との間で連携協定を結び、そのもとで学部学生の臨床実習を展開し、医科歯科連携教育を強化しています。このような地域に根差した医科歯科連携教育は、まさに、二〇二五年を目途に厚生労働省が推進している「地域包括ケアシステム」の構築に呼応するものです。二一世紀の歯科医学を背負う学生諸君には、先駆け的な教育を展開する本学で歯学教育を受け、歯科医療界のフロントランナー、そして、新たな医療体制のもとで、public dentist として活躍することを切に願っています。現在、ミャンマーの二つの歯科大学、ヤンゴン校およびマンダレー校、台湾の高雄医科大学、台北医学大学、タイのシーナカリンウイロート大学、ランシット大学、フィンランドのヘルシンキ大学、カナダのブリティッシュコロンビア大学など、多くの大学と教育連携協定を結び、学生と教員の連携を深める国際連携活動を行っています。この活動も年を重ねるごとに充実し、夏季休暇中に、多くの学部学生がタイのシュリナカリンウイロット大学歯学部や高雄医科大学歯学部で海外研修を行っています。その一方で、タイおよび台湾から歯学部学生が来学し、本学で連携研修を

行っています。まさに、双方向型の国際連携活動が安定した形で展開されています。さらに、今年度、タイから二人の留学生を迎え、総勢五人の大学院生が集う形になりました。(Sirapat Thongpoung, Pirat Kartiang, welcome to Kyushu Dental university. I hope you have a lot of meaningful and exciting time during the study at graduate school.)。九州歯科大学が Global and Local Academic Collaboration を掲げ、口腔の総合大学を目指すというプロジェクトがより充実したものになってきました。今年入学した皆さんは、このような縁を大事にして、英語で友人と語り合うというキャンパス生活を通じて、グローバルな視野を持った歯科医療人になることを切に願っています。

むすびに、江戸時代の偉大な儒学者であり、福岡県にも所縁の深い貝原益軒は、「養生訓」をはじめとして多くの著作を残しています。そのなかで、「疑いを人に問うは知を求むる道なり。自ら心に道理を思ふは知を開くもとなり。」。さらに、こうも述べています。「知って行わざるは、知らざるに同じ。」。明日からの大学で学修および研究生活を始めるにあたり、新入生の皆さんにこのような言葉を贈り、学問に対して常に真摯に、そして、生涯学習を通じて実学を身につ

け、患者本位の医療人となるまで、すべてのことに主体的に取り組むことを心から念願して、私の式辞といたします。

平成三十年四月四日

九州歯科大学

学長 西原 達次